

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和2年度 第2回「医療的ケア」委員会 会議録

日時 令和2年9月24日(木) 13:30~15:00

場所 乙訓総合庁舎 第2会議室

出席者 15名

乙訓医師会(2)・キャンパス・乙訓ひまわり園地域生活支援センター・向日市社協障がい者地域生活支援センター・乙訓ポニーの学校・乙訓障害者支援事業所連絡協議会・乙訓福祉会・済生会京都府病院福祉相談室・乙訓の障害者福祉を進める連絡会(1)・乙訓保健所保健課・乙訓保健所福祉課・向日市障がい者支援課・長岡京市障がい福祉課・大山崎町福祉課

欠席者 3名

京都府乙訓歯科医師会・乙訓訪問看護ステーション連絡会
乙訓の障害者福祉を進める連絡会(1)

事務局 2名

傍聴者 7名

配布資料 ・次第

- ・医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者フォローアップ交流会(案)について
- ・勉強会資料～重症心身障害児者等コーディネーターの役割～

議事の流れ

(GM)

・第2回「医療的ケア」委員会を始めたいと思います。事務局からお知らせですが最近、私の名前を語って訳のわからないメールが色んなところにいるようです。私の方から一斉メールを良く出しますので、それを乗っ取っていていると思うのですが、こちらから請求書やお金の話は一切しませんので、そういうややこしいのは即削除してください。お願いいたします。

1 医療型短期入所に関する病院との打合せについて

(委員長)

・前回、医療型短期入所を受けていただける新河端病院、千春会病院、長岡京病院の3者を交えて話をする方向でまず進めるという話が出たと思います。

その場合、皆さんから出た意見が大きく分けて3つ、ひとつは入院と短期入所は違うものであるのもので、その辺りを病院の方にも理解していただきたいという意見と、進めていく場合にはインシュリン等そのケースを徐々に広げていく、徐々に徐々に関係が持続できるよう少しずつ進めていったらどうかという

意見と、そういう短期入所が終わった後に、病院側とこちらの方で反省点や課題を話し合いながら、また次のステップに持って行くということで進めた方が良いのではというのを伺いましたと思います。

ただ、3病院との話し合いがコロナウイルスの関係で進みにくい状況ではあるのですが、3病院との話については一括して保健所をお願いする流れになっています。

今の段階で保健所から、現状についての意見等いただきたいと思います。

(委員)

・コロナの第2波の関係もあって、どこの病院もそちらのオペレーション等でなかなか他のことを考えるのがしんどいという状況が続いていました。どこもそろそろ大丈夫ですという話もいただけたので、来月ぐらいにはお話できるかなと思っています。コロナの関係ではあったのですが、それでストップするとか辞めるという話になっているとは聞いておりません。

病院側の事務窓口の方の話にはなりますが、院内で話を進めていくには医療型短期入所のイメージがまだ共有できていないので、そこがわかれば進むのではという印象を持っておられる感じでした。

どんな方が来られるのかというイメージが病院側としても想定しづらいというか、そういう認識のような感じでした。

(委員長)

・予定では来月ぐらいに話し合いの場が持てたら良いということで、とりあえず個別ではなくて、3病院とも一緒という感じです。

ここだけは追加で言っておきたい等、何か質問や意見がありましたら伺います。

保健所にお任せするというので、次回にどこまで進捗されているかをまた伺いするというのでさせていただきます。

2 医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者

フォローアップについて

(委員長)

・2018年から始まった養成研修について、尾瀬委員からお願いします。

(委員)

・たたき台ですが(仮称)医療的ケア児等コーディネーター養成研修修了者フォローアップ交流会(案)と書いたものがあります。

そちらに沿って提案と、皆さんから色々意見をいただいて、うまく詰めていければと考えています。

表側が簡単な概要の案ということにさせてもらっています。

趣旨ですが、圏域で医療的ケアが必要な方の支援に係る取り組みを進めていくためのキーになる役割を担うというところで続けられているものだと思っています。今のところ明確にどこかの機関に業務として位置付いていないのですが、それぞれがその役割を担いつつ、各事業所で仕事をしている状況であると思います。

やはり乙訓圏域であれば乙訓圏域で、その修了者が学んだことを活かして支援に関わっているのかということ。更に、実際に今支援している中で各々が抱えている課題にはどんなものがあるのかについて、修了後の状況をお互いに交流しあいながら確認することが目的としてあげさせてもらっています。

修了者相互の交流の場ということで、それぞれ各事業所等で仕事をしているとお互い意見交換や情報交

換というものが、きっちりした形で、そういった場を意識的に持って、医療的ケアが必要な方の支援に係る地域でのネットワークづくりに活かしていきたいというのが、今回考えている交流会の趣旨ということになります。

主催は協議会の「医療的ケア」委員会ということで、公的な協議会の下で行う交流会という位置付けをお願いしたいと思っています。

対象は昨年度、一昨年度の研修修了者になります。2市1町それぞれの事業所機関に所属されている方が2年で17名修了されています。内1名は退職されたということで現在は16名が実際に業務にあたっておられます。

日時はまだ未確定です。目標は今年度中にやるということで考えていますが、コロナのこともあるので、その状況を見ながらということになります。

場所は保健所の講堂、総合庁舎の会議室もしくは乙福の大会議室を考えています。新型コロナの状況が継続してある中で密を避けるというところでは最大16人と、この委員会の関係者何名か集まっていたくとして、およそ20名と考えて、例えば会議室や講堂、乙福の大会議室等を使わせてもらって、ちょっと離れた感じでやりとりをする形であれば何とかできるかなと考えているところです。

内容は医療的ケアが必要な方の支援に関する現状、課題の交流、意見交換と、その場で今後こういった集まりを一回持って、それぞれの支援に活かせるような取り組み、例えば研修等に関して何か考えられることはないかといったようなことも相談ができればと思っています。

今後の進め方ですが対象者のピックアップに関しては既に2市1町で整備をさせていただいています。

所属の事業所機関と修了された方の名前はわかっているので、内容をもう少し固めて、対象の修了者と所属されている機関の長に案内を送らせていただく形になります。

事前にアンケートで現状や課題をある程度持ち寄ってもらったものを事前に整理をした上で、当日その内容を基に詰めていけたらと思っています。

時期的に余裕があるようであれば集まりやすい時間帯も聞かせてもらい、日程調整も含めたアンケートにしようかなと考えています。もしも状況が悪ければ今回はアンケートとフィードバックだけということもあるとは思っています。今の状況が今後すごく悪くならなければ、集まってもらうことはできるとは考えています。

裏側にアンケートの項目を載せています。前半で修了者の基本的な情報というところで、所属をされているのが相談支援なのかサービス事業所なのか、あるいはその他、医療機関なのか行政なのかを聞かせてもらった上で、現在の職種、相談支援専門員が一番多いと思うのですが福祉サービスの職員、職種は何か、その他で聞いています。

業務経験として障がいのある方に関わっている期間の通算と今のお仕事をどのぐらいされているのか。今持っている資格、福祉系、医療系というところで、この辺りを基礎的な資料としてとらえさせてもらおうと思っています。

次が日常の支援です。実際に研修が終わって、今されている支援に関して、研修修了後に医療的ケアが必要な方に支援を行ったかどうかを聞かせてもらい、行ったことがあるという方に関してはどのぐらいの人数で、どんな層の方で、生活状況は家族同居なのかグループホームにおられるのかおひとりなのかを聞いています。実際に関わっている方で必要とされているケアの種類はどんなものがあるか。

関わった方にいつ頃から、どんな経過で繋がったかを聞かせてもらおうと思っています。

これは山城北圏域でも昨年度の研修が終わった後に、同じよう形の集まりをされていて、そこでとられたアンケートの中でこういう項目が入っており、良いなと思いました。

例えば退院に向けて、カンファレンスをされる時に病院から連絡があって繋がった等色々なケースがあると思いますが、具体的にどんな形で相談支援や直接福祉サービスに繋がっているのかを聞けたらなと思っています。

支援にあたって連携している機関・事業所は生活介護事業所であるとか訪問看護ステーションであるとか、いくつか選択肢を出しておいて、○をしてもらおうかなと思っています。

実際に研修後に直接支援をしたことがない方には今後の見込みを聞かせてもらおうと思っています。

あとは支援を通して難しいと感じることや悩んだりすることがありますかということと、やっていますごい達成感ややりがいを感じられることがあれば、書いてもらうようになっています。

医療的ケアが必要な方の支援に関しての助言指導、この辺りが難しいと思っているのですが、受けられる人がいるのか、いる場合はどんな風にされていますか。ない方については何かあった時にどういう風に解決を図っておられますかというようなことも尋ねようと思っています。

相談支援事業所の方に関しては加算をあげているのかを参考に聞かせてもらおうと思っています。

養成研修に関して、実際研修を受けての感想、研修を受講したことで、「コーディネーターの役割」が理解できたか、あるいはイメージができたかということです。できたということであれば、それを具体的にどんな風にイメージされたのか。理解が、難しかったという場合はどのような点が難しいと思われたのかを聞きたいと思います。

次に、コーディネーター研修の修了者として今後取り組んでいきたいことがあれば、それは何かということと、コーディネーター研修でもっとこういうことが学びたかったというようなことがあれば、それもあげていただければと思っています。以上が研修に関しての質問の項目です。

最後に今後の交流・学習ということで、今回集まるにあたって、特に他の方等にこんなことを聞いてみたいとか話したいことがあれば出してくださいということと、今後研修の機会があればこういうことを学んでみたいということがあればあげてくださいという形で項目を考えてみました。

これを案内と一緒に送り、書いていただこうと思うのですが、今日も実際研修を受けられた方が数名いらっしゃるの、アンケートをとるのであればもう少しこういうことも聞いてみたらどうかとか、聞き方がわかりにくいからこうした方がよい等、意見がいただければすごくありがたいです。

他の方からも交流会も含めて、何かしら提案や意見をいただければありがたいと思っています。

(委員長)

・養成研修フォローアップについての提案をいただきました。この委員会の中にも何名か養成研修を受けられた方がおられるので、意見をいただけたらと思います。受けられた方、順番にお願いします。

(委員)

・初年度に受講させていただきました。乙訓だけで集まって研修を受けて終わりではなくて、それを繋ぐ何かが必要というのはその時に言わせていただいて、皆さんからもそういう意見がありました。今年もコロナでバタバタはしていたのですが、一事業所に1人とか、研修を受けていてもなかなか相談するのは利用者を通してもちろん相談はしていくのですが、研修を受けた方達と情報共有しながら、困っていることがあったら個々には相談させてもらったりしますが、そこが業務としてうまくできていないところもいっぱいあると思います。受けたから良いではなくて、活かせるように日々相談業務と在宅で生

活する上での支援にプラスになっていく方法を見いだしていけたらなと思います。

一番利用している市民、利用者や家族がこういうことがあることで、ここでこういうことが困ったら、相談できる専門的なところがうまくいけば良いなあというのをすごく感じるので、ぜひこの交流会は次にも繋いでいけるような感じで、引き続き研修も受けていただきながら、この乙訓で集まって皆さんと一緒に考えていきたいなと思っています。

(委員長)

・研修を受けられていない方も、お願いします。

(委員)

・医療的ケアの不特定の方でケアすることがあるのですが、先輩がいない分、マニュアルの中で試行錯誤しながら、相談も当然初めてのことで戸惑っておられると思います。

そういう現場の意見はコーディネートとも交流すると支援の幅、考え方も広がるかなというのと、そこには必ずお医者さんや看護師と一緒に考えていけたらなあというのが一番かなと思っています。

(委員)

・うちの事業所では放課後等デイで2人、医療的ケアを受けておられる方が生活介護で2人だったと思います。ただ、相談をうちが直接持っているのかと言ったらそうではなくて、別のところもあります。そういうところを協議しながら、そういうことをしていくと受講した人もどんどん発展していくと思うので、積極的に参加させていただきたいと思います。

(委員長)

・例えば病院勤務の時だと、情報は色んなところに聞けます。でも、開業されると自分がステップアップするために、スキルを磨くためにはどんな感じで考えていますか。

(委員)

・こういった交流会に、参加させてもらえるなら参加した方が良いと思います。資格者の範囲を広げてもらえたらと思います。またその結果、どんな話し合いがあったのかも参加できないのであれば教えてほしいと思います。

(委員)

・キャンパスで話していたのは支援学校に通っているお子さんは保護者同士ですごく連絡をとっていると実感するところがあります。そっちを相談員が担当して、そうしたら情報量や知識等に差があると良くないというので、このような場があって意見交換ができて、情報が増えたらすごく良いと思いました。

(委員)

・私は親の立場なので参加するというのもないのですが、相談するにあたって相談する相手が「医療的ケアって何ですか。」なんて言われたら、引いてしまいます。そういうところからコーディネートしてってもらわないと困るので続けていただきたいし、場も広げていただきたいなと思います。

(委員)

・乙訓地域は今年の4月からなのでよくわかっていないので、こういう交流会の中で受講された方の思いや課題等を聞かせてもらえる機会は非常にありがたいと思っています。

(委員)

・こういう研修ができて、結果が出てきた趣旨においても圏域の中でこういう意見交換と言いますか、課題整理とかレベルアップなり、そういう繋がることに取り組んでくださいという趣旨できているので、

ぜひこういったことを進めていけたら良いと思っています。

(委員)

・アンケートの中の達成感ややりがいを感じられるというところを聞かれているのは良いことだなと思っています。乳幼児になると健康推進課等の保健師が出生児から関わっていて、福祉サービスを使うようになった時に初めて相談に繋がるので、どうしたら市町村の保健師と相談が気軽に相談できるような関係が作れるのかも今後検討いただけたらなと思います。

(委員)

・私はコーディネーター養成研修には行政の保健師として参加させていただきました。参加された方々が講義を受けて、コーディネーターとなって地域でどんな役割を担っていかれるのかを深く知ることが、参加することでできるのではないかと思います。参加させていただきました。今回作ってくださった事前アンケートの内容を見て、とても詳しく色んな質問項目があり、支援を知っていく中では訪看や相談支援等様々な立場の方が受講されていたので、その方々から意見を集めることができ、現状を把握することができる良い機会になるように思います。

また、そのアンケートを基に交流会をし、参加された方々がアンケートに目を通して、感じたことや気付かれたことを意見交換することで、更に色々な課題が見えてくると思うので、この交流会に参加して、直接そういった意見を聞かせていただきたいと思っています。

(委員)

・事例が少なかったり、先駆者の方がいらっしゃらないというところで、圏域で受けられた方同士で情報共有や考え方の共有をされる、良い取り組みだと思っています。

(委員)

・医療的ケア児も、うちは病院ですが訪問看護等でもフォローの方が来られたりするので、相談員の人、訪看、また行政の方、そういうネットワークがすごく重要ということ、その中でまた研修をして、フォローアップをし交流会をしたら、顔と顔の見える関係になって、理解がまた深まっていき、十分ケアができるようになったら、すごく良いことだなと思いました。

(副委員長)

・アンケートを作っていただいて、ありがとうございます。全て網羅されているなどと思いながら、支援を行ったことがないという方は、研修を受けたけれど期間があくと新しい相談がきた時に受けれるかどうかの不安が強くなっていくと思います。

定期的に勉強会であったり、色んな方法があると感じたので、ぜひともしていただきたいなと思います。

(委員長)

・10何年前、自立支援が小泉内閣の時にできて、その時に障がい者の自立支援法ができた時に、乙訓地域の中では連携がもうひとつできていないかなということがありました。

平成18年ぐらいに障がい者担当者交流会というのがあり、月1回ぐらい集まって、色んな情報交換をする機会がありました。その時、顔が見えるような関係にできたように思います。その会は自立支援協議会ができたことで解消されたという流れがありました。

交流会は定期的というイメージでしょうか。前の時の自立支援協議会の担当者交流会は月1回で、逆に荷が重くなった部分もあったと思います。

あまり負担にならない程度に、定期的な感じでいかれても良いのかなと個人的に思ったところです。

事前アンケートの項目で、(案)とあるのですが何か意見があったら、お伝えするという事でよろしいですか。

(委員)

・また意見があればいただきたいと思います。意見を聞いて考えないといけないなと思ったのが、今回はあくまでも対象が研修修了者を中心に考えています。今後の展開の中では話をしている部分に関係者も加わってもらったりとか、その辺りも考えていけたら良いのかなと思ったりもしたのですが、今回はあくまでも初回ということで研修修了者と、この委員会の主催ということで委員長、副委員長、事務局とどのぐらいの範囲でここから関わってもらうかはもう少し調整はしたいと思います。話の中でケースの内容等も出てくると思うので、基本的に初回はクローズで研修の修了者中心で、また今後どういうことをやりましょうということも含めて話をさせてもらう形が良いのかなと思っています。ぜひ、また何か意見があればいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3 喀痰吸引等研修について

(委員)

・平成24年から特定の方の医療行為を介護職員ができるようになり、京都府が先陣をきってやっていただき、その次の年から福祉会がやり始めました。今回で8回目です。7回目で約200人を超える方が受講していただきました。今年に関してはコロナの状況ではありますが、まずはやってみようということで、今年は福祉サービス協会とうちぐらいしか手をあげていないと思います。

ただ、希望される方や利用される方は随分いられます。支援の手を広げていくことが研修目的かなと思っています。

今年は日時が11月28日土曜日、29日日曜日の2日間でやらせていただきます。

3蜜を防ぐため、今年の基本研修の講義・筆記試験に関しては産業文化会館1階ホールで、机を40、定員40名であっても、机1人にひとつで十分まわれるかなと思っています。

2日目のシミュレーター演習に関しては3部制、基本的には1グループ5～6人で何とかできたらかなと思っています。ただ、シミュレーターの演習講師に関しては各機関の方針で、もしかしたら医療機関の看護師の参加が難しいかもしれないので、他の施設系の看護師や実際に現場をされている看護師等の力も貸りて、演習をしていこうと思っています。

11月28日に実施するのであれば、10月上旬から広報をかけたいと思っています。

この会議後の喀痰吸引等プロジェクトで最終の実施要項の確認、役割分担等の調整をさせていただこうと思いますので、よろしくお願い致します。

個人の参加ではなく事業所登録ということで、以前からお願いしています。こういう方を受講させてほしいというのがあれば、また事業所で考えてもらったらありがたいと思います。

広報に関しては実施要項の最終確認ができれば京都府に提出して、受理されればワムネット京都府センターに広報させていただき、乙福のホームページにも載せていただくというのは聞いています。

それと、うちの法人のホームページ、各圏域の事業所への郵送による周知、これに関しては去年も100件程送っているので今年もと思っています。

保健所からも各圏域のところ、丹後は難しいですが亀岡とか山城の北、南ぐらいの保健所関係にメールで送っていただいて周知をお願いできたらと思っています。

基本的には9.5時間、シミュレーター演習1.5時間ということで本来1時間で良いのですが、しっかりと人工呼吸器の方含めての演習をしていただきたいと思うので3部制で1.5時間ということで、やらせていただこうと思っています。

経管栄養と喀痰吸引に関しては去年同様、亀井看護師にお願いしようと思っています。それに関しては実際現場で講義を受けてもらおうと思っています。

医療的ケアの必要な方の生活概論に関してはいつも尾瀬さんに協力していただいています。ウェブ講義で何とかできないかということで調整しているところです。福祉サービス協会は全ての6.5時間の講義に関してはオンラインでされますが、うちとしては実際の手技に関しては目の前で、実際に道具を触ってということで演習をさせていただこうと思っています。

今年はかなり形態が変わっていますが、協力の程お願いします。

それと、産業文化会館は前日を押さえるのが難しかったので、当日9時開館の9時半講義開始で30分で説明等々をお願いしようと思っていますので、協力いただける方はよろしくお願ひしたいと思います。

4 その他

(委員長)

・何か意見、質問等ありますでしょうか。

この間、医療型短期入所をどうやって広報するというか、皆に知っていただくかというところで意見をいただく形になっています。何かあるような、ないような感じで留まっているような段階です。

もし広報について何か良いアイデアがあれば、この会の後に話をさせてもらって、なかったらそれで終了という感じにさせていただきます。

次回の日程ですが、11月26日の木曜日13時半からということで場所はできればここということですのでよろしいでしょうか。よろしくお願ひします。

5 勉強会

重症心身障害児者等コーディネーターの役割

花の木医療福祉センター 重症心身障害児者等コーディネーター 木村 美紀 氏

※資料「重症心身障害児者等コーディネーターの役割」

次回定例会：11月26日（木）13時半から